

肱川とともに歩むスポーツ

「大洲市」肱川「カヌー」

カヌーって!?

カヌーは、人類最古の舟とされ、最も古いもので6千年前のものが王墓に残されるなどとても歴史がある。人類の生活に根差した最も古い道具の1つであるが、あまり知られていない。

オリンピックの正式種目でもあるカヌーは、ヨーロッパやアメリカなどでは、人気のあるスポーツだが、日本ではまだまだ認知されていない状況にある。

カヌーには、漕ぎ手が座るコックピット

以外は甲板で覆われ、シャフト(棒)の両端にブレード(水掻き)の付いたパドル(舷に固定されていない一種の櫂)を用いる「カヤック」と、艇に甲板が無く、片端にブレードの付いたパドルを用いる「カナディアン」の2種類がある。カヌーは、このパドルを用いて艇を進ませる



大洲北中学校カヤックペア(青)



大洲城とカヌー(ホリデーインカヌー)

が、最大の特徴は、後ろ向きに進むポイントと違って、「前向き」に進むことである。

肱川とカヌー

肱川は、市の中心部を貫流し、市のシンボルである大洲城、つつじの開花で赤く染まる富士山やミシュラングリーンガイドで1つ星に選ばれた臥龍山荘を望む。また、うかいや花火大会、いもたき、肱川あらしなど、四季折々の風物詩がある。

スポーツにおいても、ジュニアトライアスロン大会やカヌーツーリング大会、ドラゴンボート大会などが行われている。特にカヌーツーリング大会は、22回を数え、毎年、約300名の選手が肱川を舞台にパドルを漕ぎ合う。

とりわけ「レジャーカヌー」は、国立大洲青少年交流の家の野外体験活動の一環として取り入れられ、県内外から多くの児童や生徒、一般の方々が体験されている。肱川ツーリングやカヌー教室などは、大洲市カヌー協会や県立大洲高等学校カヌー部もサポートしながら、青少年交流の家と一緒に活動を展開し、地域に根ざした取り組みを行っている。

平成23年からは、大洲市が窓口になり、



大洲カヌークラブ会長

谷野 秀明

(愛媛県カヌー協会、大洲市カヌー協会、大洲カヌー同好会所属)



緊張のスタート(2012.7 山梨B&G大会)

青少年交流の家とタイアップし、修学旅行生のカヌー体験を受け入れ、2012年は6校243名の生徒らがカヌーに親しんでいる。

また、大洲市における体験型観光のメーンとして、大洲カヌー同好会が主催している「ホリデーインカヌー」がある。

これは、えひめ町並博2004の自主企画イベントプログラムの一つとして企画したもので、9年間続いている。大洲を訪れる観光客をターゲットトとして交流人口の拡大を目指し、大洲城や富士山など風光明媚な景色を眺めながら、カヌー体験ができる。町並博期間中は250名ほど、ここ数年は予約制としたこともあり、年間50名程度の方に体験してもらっている。

一方、「競技カヌー」においては、国体をはじめ各年代の全国大会に参加しており、過去には世界選手権に出場した選手を輩出し、市内に在住している経験者は、現在もカヌーの指導者として活躍している。また、大洲高校では、1987年に同好会を設立し、1990年に部に昇格した県内唯一の「カヌー部」があり、2017年に開催される愛媛国体に向けての強化指定校にもなっている。



2012.10 OHK杯 (坂出市)



2012.5 中国レガッタ (広島県)

このように大洲市のまちの中心部を流れる肱川は、水量が豊富なうえカヌーには抜群な環境であり、子どもから大人まで地元住民だけでなく観光客等に対しても、官民が一体となってカヌーの普及とカヌー人口の拡大を図っている。

愛媛国体で地元選手を表彰台へ!!

2017年に開催される愛媛国体において、大洲市の鹿野川湖ではカヌースプリント競技が開催される予定である。

地元での優勝を目指して、2011年に愛媛県カヌー協会の下部組織となる「大洲カヌークラブ」を立ち上げた。現在、小中学生15名とその保護者が一緒に土曜日、日曜日を中心にカヌーの練習を行い、全国大会をはじめ各種大会に参加している。練習場所は市の中心部ということで練習環境にも恵まれ、めきめきと実力を上げ、今年の7月末に山梨県で開催された全国小学生大会では、6位に入賞した選手もおり、さらなる飛躍を目指して練習に励んでいる。

クラブの活動方針としては、水のスポーツということもあり、万が一ということも考え、①きまり・約束事は必ず守る、②マナーや礼節に対する心構え、③練習場所でもある肱川をはじめとしたクリーン活動への取り組み等を指導している。さらにはカヌーを通して郷土に愛着を持ってもらうことを念頭に活動している。

大洲市⇨肱川⇨カヌーの方程式

カヌークラブは立ち上げて1年半ほどであるが、子ども達は着実にカヌーを好きになれている。そこから、生まれ育った地域に愛着を持ち、誇りに思うようになり、このような活動を通して、地域と一体となつて、いい選手や人材も育てていければと考えている。

ホリデーインカヌーやクラブ・大洲高校の練習拠点は「肱川」である。肱川橋を行き交う人々や地域の方々、市民にとつて、カヌーは身近なスポーツであり、大洲市を代表する地域スポーツとして、「肱川のカヌー」をこれまで以上に定着できればと熱い想いを抱いている。

また、「大洲市に肱川有り、肱川にカヌー有り。」と認知されるように、1艇でも多くのカヌーを肱川に浮かべ、地元住民だけではなく観光客にも「カヌー」を見てもらい、肱川・カヌーを肌で感じてもらいたい…

そして、できるだけ多くの人に、生涯スポーツであるカヌーの魅力を感じてもらい、「大洲市⇨肱川⇨カヌー」の方程式が成り立つように今後も活動していきたい。